

市政ニュース

韓国禮山郡視察団が来訪し、 「コウノトリ野生復帰に関する友好交流合意書」締結



▲崔禮山郡守(左)から中貝市長へ木彫の亀の贈り物

5月28日から29日まで、韓国忠清南道禮山郡から、郡守の崔昇佑さんをはじめとする視察団が来訪しました。同団は、県立コウノトリの郷公園やハチゴロウの戸島湿地、カネカソーラーテック株式会社、たじまんなどを視察しました。

韓国では、コウノトリ復元センターと禮山郡が中心になって、一度絶滅したコウノトリの復活と共生を目指す「コウノトリ野生復帰計画」が進んでいます。

禮山郡と本市との官民交流は、同郡での野生復帰計画が決



▲禮山郡と締結した「コウノトリ野生復帰に関する友好交流合意書」

まった平成21年から始まり、昨年は中貝市長が放鳥予定地を訪問し、交流を深めました。今回、禮山郡と本市は、コウノトリと共生するまちづくりを通して持続可能な環境都市を実現するため、「コウノトリ野生復帰に関する友好交流合意書」を締結しました。合意書には①コウノトリ野生復帰のための情報・資料・技術協力②行政・管理人材の教育・研修交流の推進③環境創造型農業の協力などが盛り込まれています。

在大阪モンゴル国総領事館 総領事チヨナイ・クランダ氏が来訪

5月17日、在大阪モンゴル国総領事館総領事チヨナイ・クランダさんが来訪しました。在大阪モンゴル国総領事館は平成24年3月に開設。クランダ総領事は本年4月に着任されました。

総領事は、石高雅信教育長と対談し、「日本・モンゴル民族博物館」を訪問。「モンゴル国の文化を日本に広く紹介する日本・モンゴル民族博物館



▲モンゴル草原の暮らしと文化の展示を見学する総領事

大正14年5月23日に発生した北但大震災を風化させることのないよう、また災害経験を防災・減災対策に生かすため、5月19日、中筋地区公民館を会場に北但大震災メモリアルイベント「地震に備える」を開催しました。

今回は、中筋地区を対象に防災行政無線放送を活用した「地震安全走行動訓練」を行いました。また出前講座、展示で、家庭や地域でできる地震への



▲消火器使用の实地訓練

決して忘れず 教訓に、 北但大震災メモリアル事業「地震に備える」を開催

参加者の皆さんは、消火器・消火栓の使用の实地訓練にも真剣に取り組んでいました。

主な市政の動き

- 14日・JFAこころのプロジェクト「夢の教室」(15・16・21・23日、28・30日、6月18・20日)
- 16日・東日本大震災被災地復興応援の旅(18日)
- ・いのちの輝き体験教育旅行「来訪」(18日、23・25日、28・30日)
- 22日・市政懇談会(出石、但東、23日・日高、29日・豊岡、30日・竹野、6月3日・城崎)
- 24日・災害時における福祉避難場所提供等に関する協定締結
- 26日・豊岡防災公園完成記念式典・イベント
- 28日・韓国禮山郡と「コウノトリ野生復帰に関する友好交流合意書」締結
- 29日・チャレンジデー
- 31日・市議会定例会開会(6月26日)
- 6月
- 3日・豊岡市第4次外国人漁業研修生修了証授与式
- 8日・大雨・洪水防災訓練

夢へのチャレンジ！小・中学生バレーボール教室

『デンソーエアリービーズ in 豊岡』を開催

6月8・9日、夢へのチャレンジ！小・中学生バレーボール教室『デンソーエアリービーズ in 豊岡』を総合体育館で開催しました。

この教室では、子どもたちがトップクラスの選手などと直接接することにより、感動やあこがれ、希望の夢を育み、スポーツの楽しさを体得することを支援し、基礎体力や技術の向上を図ります。

6月8日は、市内小学生バレーボールチームの約180

人が、9日は市内中学校バレーボール部員約130人が参加しました。

当日は、ロンドンオリンピック女子バレーボール銅メダリスト井上香織さんらV・プレミアリーグで活躍中のデンソーエアリービーズの選手15人と監督などを指導者に迎えました。

子どもたちは、選手と交流しながら準備運動をし、模範プレーを交えた、丁寧で細やかな指導を受けました。



▲選手の指導を受ける子どもたち

また、井上選手は自身の経験を語りながら「諦めずに夢に向かって頑張ってください」と激励しました。

「災害時対応に新たな力」 「災害時における福祉避難場所提供等に関する協定」を締結

5月24日、災害時における福祉避難場所提供などについて、但馬障害者通所施設連絡会(会長・宮下典子、16施設)

と協定を締結しました。

当日は、同連絡会の加盟施設のうちの14施設から施設長や支援員が出席し、宮下会長と中貝市長が協定に署名しました。災害時は行政だけでは行き届かない面も多く、関係施設

の協力は大きな力。お互いに支えあって今後の備えを進めていきます。

【協定の内容】

- ①災害時要援護者への避難場所の提供
- ②災害時要援護者への支援など(指定避難所などでの支援などを含む)
- ③可能な範囲での災害時要援護者の福祉避難場所への移

送
④その他、加盟施設が可能とするサービスの提供



▲協定書に署名する宮下会長(右)と中貝市長

中貝市長の徒然日記 ⑬

ツバメの巣づくり

表札の上に、ツバメが巣を作りました。

昨年もそうでした。「中貝」の字の上を泥がしたたり落ちました。それではあんまり「中貝宗治」がかわいそうだと、家人が洗い流し、表札を外した後に籠を設置しました。が、ツバメは見向きもしません。が、顛末をフェイスブックに載せたところ大反響。「ツバメが巣を作るなんて縁起がいい」「泥くらい辛抱すべきです」「コウノトリもツバメも一緒にでしょ?」「市長らしくない」。

コウノトリファンクラブ会長の柳生 博さんが豊岡に來られたとき、その話をしました。た。

「おい、中貝君、ケチなことをするな。表札くらいなんだ、貸してやれ!」ツバメは減っているんだ。里山の自然や農耕地が減って、おまけに家が洋風化して巣を作る場所がなくなっちゃった!」

見ると、柳生さんのジャケットには、ツバメのバッジが

輝いていました。「日本野鳥の会で全国に呼び掛けて、ツバメの実態調査をしているんだ。消えゆくツバメを守ろうキャンペーンをやっているのを知らないのか?これ(バッジ)やるから、表札、貸してやれ」。それからどんな話になったのか、お互い酔っぱらって覚えていません。野鳥の会のホームページには「消えつつあるのは人とツバメのつながりでした」とありました。

罪滅ぼしにと、庁舎建設担当に、「新庁舎のどこかにツバメの巣ができるように台を作ってやってくれ」と懇願し、検討課題になっています。

で、今年です。表札の上には碧のような立派な巣ができました。もう誰も、私のツバメに対する海よりも深い愛情を疑う人はいないはずですよ。やってくるツバメを長男が「ジョンナサン」と名付けました。「それ、カモメでしょ?」とさっそく指摘が。ふんだらけの玄関の上で、さて今年もヒナがかえるのか。今年も柳生さんは怒るのか(来年に続く:たぶん)。